

## J03-02 計測の準備～ワーク高の計測・調整

### Preparation and Work Height

#### 1 まず艇を水平に置き固定する Place the boat horizontally

##### 1.1 水平に置く

リギングは、艇を水平に置き、固定することから始まります。艇の前後・左右の水平を、水準器で測定して調整しますが、その艇にあった計測ポイントを知っておかなければなりません。

##### 1.2 固定する

折り畳み式のウマなどでは、ロッド(棒)などを両舷にあてて、艇が容易にぐらぐらしないように固定します。これは特に後述の「カバー角を調整」するために必要です。補助者が、ストレートバーを地面に立てて、リガーと一体で持って固定する方法でもかまいませんが、ぐらぐらさせながら測っても無意味です。

#### 2 調整の順序

#### Order of the rigging

リギングの各要素の調整順序には、特に絶対的な固定した手順はありませんが、一つの計測・調整が、後の作業で再調整が必要になる手順にならないようにします。ここでは、以下の準で調整します。

- ワークスルー、ワーク高の調整。
- スパン、インボードの調整。
- ブレードカバー角の調整。
- ストレッチャーの調整。

なお、これとは別に、様々なリギングの要素を、実際の乗艇の中で、どういう順序・優先度で調整するかという課題もあります。しかしその答えは、別の機会に譲ります。それではまず、ワーク高からです。

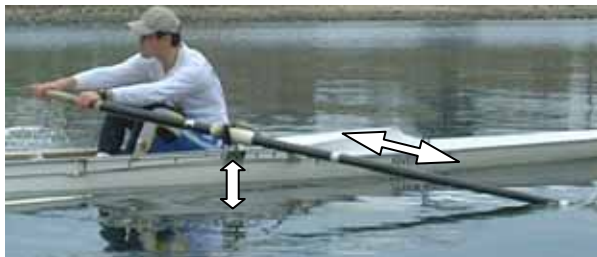
#### 3 ワーク高の調整

##### 3.1 ワーク高の定義

##### Height of the Work

ワーク高とは、オールロック(クラッチ)の高さのことで、「シートの座面(最低部、中心線上の後端など)を基準として、ミドルの位置にしたオールロックのシル(=オールロックの内面のうちの底面)中央部の高さ」をワーク高と定義します。ワーク高は、オールロックをミドルの位置で測るのが基本です。

なお、ワーク高については、「水面」を基準として考えることも重要です。シャフトと水面のなす角度を適度に確保する必要があります。一般的な設定順序とは逆に、水面からのワーク高を適切に設定し、それによってハンドルから上体の高さが決まり、それに応じてシートの座面の高さを最適にするという手順も、より理想的です。



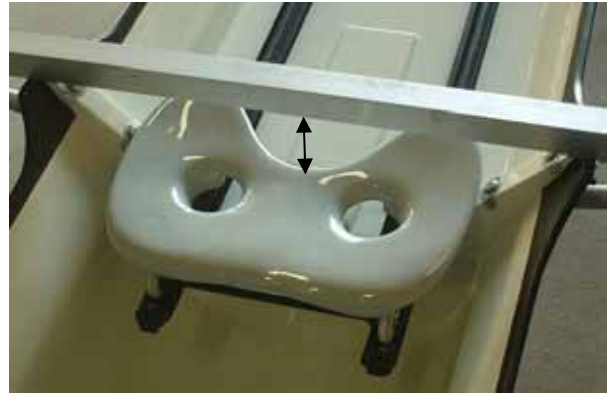
ワーク高は、水面とシャフトから適度な高さには設定する必要がある。

リギングでは、まず艇を水平に置き、安定させることが基本です。そしてここではまず、ワークハイトの測り方と調整方法を説明します。

##### 3.2 計測方法

##### Measuring of the Height

ワーク高の計測には、Lゲージ(リギングバー、スティック)を使います。ガンネルにゲージを置き、シート座面からゲージ下面までの高さ、ゲージ下面からオールロック(ミドル位置/シル中央)までの高さを測定し、両者の合計がワーク高です。



シート(中心、最後端を推奨)からガンネルまでの高さの計測。



ガンネルからオールロックまでの高さの計測



ハイトを計測するときは、「ミドルの位置で」シルの中心で

##### 3.3 調整

##### Mechanism for Adjustment

ワーク高の調節方法は、リガーの構造によって異なります。リガーの取り付け位置の変更、(リガーの取り付け部にスペーサの挟み込み)、多孔式か長穴式のL板の差し替え、ピンのワッシャーの差し替えなどで行います。



L板は孔の位置でハイトを調整できる